

LASER World of PHOTONICS 2009

ファイナルレポート



第 19 回国際レーザー・オプトエレクトロニクス応用技術

システム・アプリケーション専門見本市 / 国際会議

2009 年 6 月 15 日～18 日 / ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場

2009 年 6 月 18 日

Summary

- 業界をリードする見本市として地位を明白に
- 出展社数、出展スペースは過去最高に
- バイオ・フォトニクス、太陽電池製造及びイルミネーション分野に高い関心
- World of Photonics Congress も大盛況のうちに終了
- PHOTONICA の主催者である EXPOCENTR Moscow との協力関係を締結



Facts & Data

会 期	2009 年 6 月 15 日(月)～18(木) 午前 9 時～午後 5 時(最終日のみ午後 4 時まで)
会 場	ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場
主 催	ミュンヘン見本市会社 (Messe München GmbH)
規 模	全 4 ホール 約 42,000 m ² (2007 年: 3 ホール、33,000 m ²)
出 展 企 業	1,040 社 (2007 年: 1,008 社)
来 場 者 総 数	24,000 人以上 (2007 年: 26,655 人)
専 門 分 野	レーザー・オプトロニクス、光学、光学製造技術、センサー・測定技術、生産技術、光学測定システム、医療技術・バイオテクノロジー、イメージング、イルミネーション
主 な 出 展 品	光学コンポーネント: レーザー・オプトロニクス、オプティクス、センサー、検査・計測 オプティカル製造技術・光学アプリケーション: レーザー加工・製造技術、オプティカル計測システム、医療用レーザー、バイオテクノロジー、イメージプロセッシング
出展日本企業 ※ 現地法人・代理店出展含 (50 音順)	アイシン精機(株)、朝日分光(株)、(株)彩世、五鈴精工硝子(株)、NTT エレクトロニクス(株)、応用光研工業(株)、(株)オキサイド、(株)オハラ、(株)オプトクエスト、(株)オプトロニクス社、(株)キコー技研、(株)金門光波、santec(株)、三洋電機(株)、ジオマテック(株)、(株)住田光学ガラス、(株)清和光学製作所、ソニー(株)、タツタ電線(株)、東京理科大学、独立行政法人情報通信研究機構、夏目光学(株)、(株)ニコン、日亜化学工業(株)、(株)ハギテック、浜松ホトニクス(株)、(株)フェローテック、古河電気工業(株)、(株)堀場製作所、三菱電機(株)
専 用 U R L	www.world-of-photonics.net (英語 / ドイツ語)

2009年6月15日から4日間に渡り、ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で開催された **LASER World of PHOTONICS 2009** は、昨今の世界的な経済危機にも関わらず出展社数、出展規模ともに前回は上回り、業界をリードする見本市としての地位を明白にした。4日間の会期中、出展社は革新的な技術を紹介し、産業と科学を橋渡しする多くの相乗効果をうんだ。また今回、来場者からはこれまででもっとも高い評価を受けた。



出展社数はこれまでで最も多い 1,040 社にのぼり(2007年は 1,008 社)、ドイツ国外からの出展社が前回の 53%から 57%に増え、国際色はますます高くなった。民間のリサーチ会社 TNS Infratest 社によると、業界をリードする見本市としての地位に対して、出展社からは非常に高く評価された。また、来場者からの評価は、出展分野の広さ、また国際色の高さ、業界をリードする企業の出展の多さの面で、過去最高の評価を受けた。また、出展ホールは、前回より 1 ホール多い全 4 ホールで、総出展スペースは 42,000 m² となった。拡大したスペースは、主に 2 つのセグメント「レーザー・オプティクス」と「レーザー・製造用レーザーシステム」によって埋められた。

今回の来場者数はおよそ 24,000 人と前回の 26,655 人に比べると少し減少した。これは主に、近年の経済低迷のより大きな打撃を受けたドイツの産業界からの来場者の減少による。それでも出展社の満足度は非常に高く、TRUMPF 社の Jens Bleher 氏は、「来場者の総数は前回に比べて少し減少したものの、来場者の質は非常に高く、今回も多くのビジネスを成立することができた。来場者の多くは、当社の太陽電池製造における革新的なレーザー技術に興味をもっていた」と話している。

バイオ・フォトニクス、太陽電池製造及びイルミネーション分野で明るい兆し
太陽電池製造におけるレーザー技術の他に、今回バイオフォトニクス・ライフサイエンス及びイルミネーションの分野に焦点を当てた。これらの分野は、来場者、出展社、また多くのメディアからも大きな注目を集めた。展示の他に今回大きな注目を集めたのは、実務に基づいた数多くのプレゼンテーションで、およそ 2,200 人が無料で参加できるこの「アプリケーション・パネル」で、最新の開発状況や革新的技術についての情報を得た。Coherent 社の Matthias Schulze 氏は、「当社のバイオ・フォトニクスに関するプレゼンテーションには予想以上に多くの人々が参加した。医療分野における次のステップはレーザーを使った診断技術で、これにはエイズ治療から糖尿病診断など幅広い分野が当てはまり、非常に大きな潜在市場と見ている」と話している。

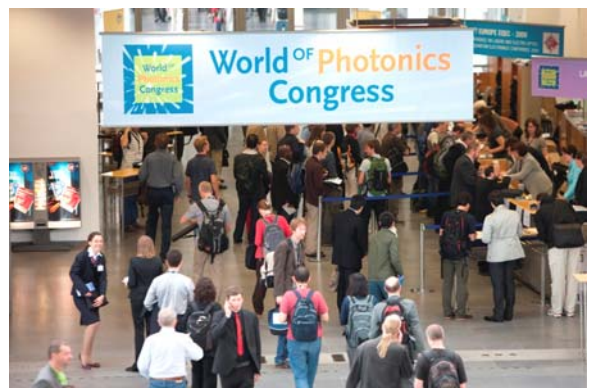


多くの業界リーダーが参加

今年も LASER World of PHOTONICS は業界の経営者たちのミーティングポイントとしての役割を果たした。CEO ラウンドテーブルでは、Carl Zeiss Microlmaging 社、Coherent 社、CVI Melles Griot 社、Han's Laser Technology 社、Quoptiq SAS 社、Rofin-Sinar Laser 社の CEO や社長が、「光学技術は危機時における輝かしい希望」と題したパネルディスカッションを行い、業界の潜在的なビジネスチャンスについての討論を行った。

World of Photonics Congress との相乗効果

今回の World of Photonics Congress には世界各国からおよそ 3,100 人が参加した。Congress は前回に比べて規模が大きく、また国際色もより強くなり、今までに比べてより実務的なアプリケーションにフォーカスしたものとなった。7 つの独立した会議プログラムが集まり、光学技術を網羅したプログラムとなっている。今回、European Optical Society (EOS) 主催で、新しく光学部品製造に関する会議が開催され、注目を集めた。



また、LASER World of PHOTONICS との併催で、理論と実務を密接に連携することができ、会議参加者と出展社に大きな相乗効果を与えた。Toptica Photonics 社の Wilhelm G. Kaenders 社長は、「優秀な科学者が多く参加しているこの会議プログラムと併催することで、質の高い来場者とのコンタクトを得ることができることから、当社にとって非常に大切な役割を果たしている」と話している。

LASER World of PHOTONICS、グローバルネットワークをより一層強化

LASER World of PHOTONICS はドイツ国外でも成長を続けている。ますます成長を続けている LASER World of PHOTONICS China(中国・上海)に加えて、ロシアにもネットワークを広げることになった。今回の会期中には、レーザー・オプトエレクトロニクス分野においてロシアでもっとも重要な見本市 PHOTONICA の主催者である EXPOCENTR Moscow との協力関係を締結した。その結果、2010 年の初めに、メッセ・ミュンヘンの子会社である IMAG が PHOTONICA Moscow の共同主催者として参加し、まずは主にロシア国外からの出展社の獲得を担当することになっている。

次回の LASER World of PHOTONICS は、2011 年 5 月 23 日から 26 日に開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.world-of-photonics.net まで。

資料請求、出展申込み、入場券購入、各種お問い合わせ先：

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.com (英語 / ドイツ語)